

日本遺伝子診療学会  
第13回理事会議事録

- . 日 時： 2003年7月23日(水) 14:00～17:00
- . 会 場： 千里阪急ホテル 3F 「梅の間」  
(豊中市新千里東町2-1 D-1)
- . 出席者： 上田國寛(理事長)、清水信義(副理事長)、河合 忠(監事)、森 徹(監事)  
網野信行、金田安史、北村 聖、鈴森 薫、新川詔夫、引地一昌、平井久丸、  
福嶋義光、藤田 潤、町田勝彦、松原洋一  
荻原俊男(第10回大会長)、勝谷友宏(第10回大会事務局)  
山岡和子  
(第43回日本臨床化学会年次大会・第50回日本臨床検査医学会総会事務局)
- . 委任状提出： 衛藤義勝、鎌谷直之、榊 佳之、笹月健彦、辻 省次、成澤邦明、三木哲郎

. 議 題：

1.報告事項

- 2003年度庶務事業実施状況報告
- 会員数動向
- 2002年度決算報告
- 2002年度監査報告
- 会費収納状況
- 委員会報告
- 8学会合同ガイドライン検討ワーキンググループ報告
- アドホック委員会報告
- 遺伝子診療部連絡協議会報告
- 第10回学術集会開催報告
- 第11回学術集会準備状況報告
- 第12回学術集会準備状況報告

2.人 事

- 評議員留任諾否報告および推薦について
- 委員の推薦と異動について
- 有功会員および名誉会員候補者の推薦について

3.審議事項

- 2004年度庶務事業計画
- 第5期役員選挙スケジュールについて
- 2003年度予算修正検討
- 2004年度予算案
- 今後の財政について
- 登録継続意志確認不能の5年以上滞納者および異動先不明の会員について
- 2006年第13回学術集会大会長選出

## 渉外関連事項

・第 43 回日本臨床化学会・第 50 回日本臨床検査医学会でのシンポジウム共催について  
今後の学会運営について

### 議 事 :

はじめに、上田理事長より開会の辞が述べられ、出席者の定足数充足および委任状 6 通の提出が報告され、本理事会の成立が宣せられた。次いで、議事録署名人として清水副理事長と町田理事が指名され、承認された。

続いて、以下の通り 議事が進められた。

### 1. 報告事項

#### 1- 2003 年度庶務事業実施状況報告

町田理事 (庶務担当筆頭理事) より 2003 年度の会員入退会および庶務事業実施状況が報告された。また予定として、第 10 回総会における名誉会員推薦および第 43 回日本臨床化学会・第 50 回日本臨床検査医学会とのシンポジウム共同開催が報告された。次いで、上田理事長より 第 43 回日本臨床化学会・第 50 回日本臨床検査医学会事務局担当の山岡和子氏 (広島大学 病態臨床検査医学) が紹介された。  
(資料 1)

#### 1- 会員数動向

上田理事長より 2002 年度の会員数動向が報告された。

#### 1- 2002 年度決算報告

北村理事 (会計担当筆頭理事) より 2002 年度決算が報告され、収入、支出ともに予算未達で 745,973 円の赤字となり、翌期への繰越金は 377,197 円となったことが説明された。さらに上田理事長より、収入予算未達の要因として、個人、賛助ともに会員数が減少していることが挙げられた。  
(資料 2-1、2-2、2-3)

#### 1- 2002 年度監査報告

森監事より 2002 年度決算および財産について監査を行った結果、適正に処理されていることを確認したことが報告された。  
(資料 2-1)

#### 1- 会費収納状況

北村理事 (会計担当筆頭理事) より 2002 年度および 2003 年度会費収納状況が報告された。収納率を高めるために、年度内の早い時期に督促を行なうことが申し合われた。  
(資料 3)

#### 1- 委員会報告

各委員長より、委員会で予定されている議題または議事内容が報告された。

(総務理事会)

上田理事長より、総務理事会において、今後の学会活動および財政対策を中心に議論を行なう予定であることが報告された。

(情報委員会)

清水副理事長より 蓑島伸生氏 (7 月 1 日付で慶應義塾大学から浜松医科大学光量子医学研究センターへ異動) の委員長就任について、各情報委員から承認が得られたことが報告された。委員会としては情報提供の手段としてネット活用を進める方針で、議題として、FTP サイトの立ち上げ、リンクの拡充等を取り上

げることが説明された。

(技術委員会)

引地理事(技術委員長)より、臨床検査の国際規格 ISO15189 の公表を受けて、国内の臨床検査関連の学会および団体において、遺伝子検査の標準化検討委員会の組織化が進んでいる状況が報告された。なかでも JCCLS (日本臨床検査標準協議会) の遺伝子検査標準化委員会は、上田理事長をはじめ本学会の役員、委員が主要メンバーであり、国内の ISO 提案の窓口となるので、学会としての見解を反映させていくべきとの提案が行われた。さらに今後、本委員会を対象とする技術の範囲に、たんぱく質の分野を含めるべきかどうかといった問題が提起された。

(学術委員会)

平井理事(学術委員長)より、本理事会に先立って上田理事長同席で開催された学術委員会の審議内容が報告された。活動の活性化を図るため、主として委員の補充について話し合わせ、上田理事長から松原理事の広報委員会からの異動が提案され、すでに本人の内諾が得られていること、遺伝子診療の各領域から学術活動を担える候補者の検討を進めていくことなどが説明された。これを受けて、松原理事の学術委員会への異動が承認された。

(広報委員会)

金田理事(広報委員長)より、前回理事会での提案を受けて、大学における遺伝学及び遺伝子診断学のモデルカリキュラムの提言について、実態調査の実施などを含めた議論が予定されていること、さらに大学教育の前段階である高校の遺伝教育についても取り上げることが説明された。

(倫理問題委員会)

鈴森理事(倫理問題委員長)より、8学会合同ガイドライン検討ワーキンググループの経緯が説明され、作業部会を中心に検討を重ねたガイドライン改訂案について、各学会に対して見解が求められており、倫理委員会で議論を行なうことが報告された。

(資料4)

#### 1- 8学会合同ガイドライン検討ワーキンググループ報告

鈴森理事より、各役員にガイドライン改訂案を事前送付しており、送られてきた意見については、倫理問題委員会で検討する旨が報告された。次いで、福嶋理事より、その後も改訂案について検討が重ねられ、修正が追加されたことが報告された。

(資料5)

#### 1- アドホック委員会報告

清水副理事長より、学会国際化を目指し、アメリカ人類遺伝学会、ヒューマン・ゲノム・ソサエティとの学術提携を将来的な目標とするが、当面はHPを通じてこれらの学会から発信される海外の学術情報を提供していく方針が述べられた。

#### 1- 遺伝子診療部連絡協議会報告

福嶋理事より、これまで厚生科学研究 古山班で遺伝医療体制に関する調査・研究が継続的に行われており、現在、遺伝子診療部は38箇所の大学病院で設置され、28箇所で準備中であるとの現状が報告された。さらに、遺伝子診療部連絡協議会の準備段階として「遺伝子医療部門連絡準備会議」を立ち上げ、11月29日に東京で講演会を予定していることが説明され、学会としての後援・協力が要請され、了承された。

#### 1- 第10回学術集会開催報告

荻原俊男第10回学術集會会長より、第10回学術集会プログラムおよび応募演題数が報告され、開催への協力に対し謝辞が述べられた。

(資料6)

1- 第 11 回学術集会準備状況報告

清水副理事長(第 11 回学術集会会長)より 2004 年度第 11 回学術集会準備状況が報告され、日程及び会場予定、演題募集方法、準備スケジュールが説明された。

(資料 7)

1- 第 12 回学術集会準備状況報告

福嶋理事(第 12 回学術集会会長)より 第 12 回学術集会の日程、会場について、いくつかの候補を検討中であることが報告された。

2.人 事

2- 評議員留任諾否報告および推薦について

上田理事長より 評議員留任諾否の結果が報告され、辞退 6名を除く 65 名の留任が承認された。さらに評議員の現数が会則上、定数に達しており 新たな申請の提出も無いことが確認された。

(資料 8)

2- 委員の推薦と異動について

上田理事長より 委員留任諾否確認の結果が報告され、委員会構成の現況が確認された。また、鎌谷理事の情報委員への就任が承認された。

(資料 9)

2- 有功会員および名誉会員候補者の推薦について

上田理事長より 第 12 回理事会の決定に基づき、高久史磨氏(自治医科大学)、菅野剛史氏(浜松医科大学)を第 10 回総会において名誉会員に推薦予定であることが報告され、了承された。

(資料 10)

3.審議事項

3- 2004 年度庶務事業計画

町田理事(庶務担当筆頭理事)より 2004 年度庶務事業計画が提案され、承認された。

(資料 11)

3- 第 5 期役員選挙スケジュールについて

町田理事(庶務担当筆頭理事)より 第 5 期役員選挙スケジュールが提案され、承認された。

(資料 12)

3- 2003 年度予算修正検討 / 2004 年度予算案 / 今後の財政について

北村理事(会計担当筆頭理事)より 2003 年度の現状に基づく収支見通しが説明され、大会主催校による抄録印刷費の半額負担、電子メールによるニュースレター配信などの対策を盛り込んだ試算が示された。これに対し、抄録印刷費の負担は、大会事務局の財政的な負担が大きくなるので一考すべきという意見や、抄録集の配付を参加者のみに限定してはどうかといった意見が出された。次いで、上田理事長より、荻原俊男第 10 回学術集会会長に対し、抄録印刷費の半額負担が要請され、承諾された。また、ニュースレターのメール配信については、メールアドレス登録割合が現状では 57.1%であることから、2003 年度の修正予算案には反映させず、今後の問い合わせ等によって登録率が 80%を越えた時点で、改めて実施を検討することが申し合われた。続いて 2004 年度予算案が審議され、当初予算については 2003 年度に倣い、抄録印刷費の大会事務局半額負担を前提とすることが確認された。さらに、上田理事長から、今後の財政対策として年会費の値上げが提案された。これに対し、一律に値上げするのではなく学会組織を将来的に考慮し、学生については会費を減額して負担の軽減を図る、バナー広告などで企業からの協力が得られるよう努力

すべきなどの意見が交わされ、会費設定の見直しについては、財政状況の推移を睨みながら、継続的に検討していくことが申し合われた。2003 年度修正予算案として修正案試算 1 を、2004 年度予算案として予算試算 1 を、第 10 回評議員会および第 10 回総会に諮ることが確認された。

(資料 2-3)

3- 登録継続意志確認不能の 5 年以上滞納者および異動先不明の会員について

上田理事長より登録継続意志確認不能の 5 年以上滞納者 16 名および異動先不明会員 2 名の登録抹消について、第 10 回評議員会および第 10 回総会に諮ることが提案され、承認された。

3- 2006 年第 13 回学術集会大会長選出

上田理事長より第 13 回学術集会会長として、町田勝彦理事(東京慈恵会医科大学 臨床検査医学 教授)が推され、承認された。

3- 渉外関連事項

上田理事長より神辺眞之第 50 回日本臨床検査医学会会長の代理として山岡和子氏(広島大学 病態臨床検査医学)が紹介され、山岡氏より第 43 回日本臨床化学会・第 50 回日本臨床検査医学会および共催シンポジウムについての開催概要が説明され、協力への謝辞が述べられた。次いで、上田理事長より共催シンポジウムの座長、演者選出の経過説明と紹介があり、宣伝等の協力が要請され、了承された。

(資料 13)

3- 今後の学会運営について

上田理事長より学会発足 10 年目に際し、遺伝子診療の臨床現場における情報の整理、技術の検証と標準化、倫理問題への取り組みなどの設立目的をふまえて、今後の方向性をどのようにすべきか問題提起が行われた。これに対し、診断、創薬などゲノム医学における各領域への継続的な取り組みが組織発展につながるのではないかと、ガイドライン 10 学会の連携を生かして、共通テーマの活動や専門医制度について国内で統一的に取り組む道を探る、基礎と臨床両方からの参加が得られるという学会の特性を生かし、ヒトに関する遺伝子について現場に直結するようなテーマを取り上げていくべき、などの議論が交わされた。

以上をもって閉会を宣した。

2003 年 7 月 23 日

日本遺伝子診療学会

議 長 理事長

上田 國寛

議事録署名人 副理事長

清水 信義

議事録署名人 理事

町田 勝彦